

北朝鮮人道支援の会 ニューズレター N0.59

(朝鮮民主主義人民共和国)

編集・発行人 吉田 康彦

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町1 1 4 5 TEL:048-778-9961 FAX:048-647-6191

E-mail: yy2448@chive.ocn.ne.jp URL:<http://www.yoshida-yasuhiko.com/>

郵便振替番号: 00140-4-126579 加入者名「北朝鮮人道支援の会」

2011年 7月1日

創立31年目を迎えた松本日朝市民会議

朝鮮の自主的平和統一を支持する松本市民会議(日朝松本市民会議)は、6月22日、第28回定期総会を松本市内で開催しました。総会には、会員や朝鮮総聯などから65名が参加。杉本文男会長は、高校無償化の問題や国交正常化交渉など難題が山積しているが、30周年の活動を一つの節目として35周年、40周年と活動の継続と前進を期待したいとあいさつ。来賓として日朝長野県民会議を代表して村山智彦事務局長が、県民会議の活動の先頭で精力的に活動をしている市民会議に敬意を述べ、朝鮮総聯中信支部の曹正雄委員長からは、朝鮮学校支援や金剛山歌劇団支援に感謝の意が述べられました。総会では、長野朝鮮初中級学校支援や7月の議員訪朝団の派遣など、2011年度の活動方針や杉本会長の再任などを決定。

2003年から「常任講師」をお願いしている吉田康彦氏から「朝鮮半島情勢のゆくえ」と題する記念講演をいただきました。氏は昨年脳梗塞で倒れ、闘病中にもかかわらず清子夫人を伴い元気な姿を見せ、1時間にわたり豊富な朝鮮情勢の知識と情報を駆使して、米朝関係、米中関係をはじめ日朝関係の現状と展望を語りました。

吉田氏は「日朝関係は現在膠着状態にあり、完全に行き詰っている。当面進展の気配はなく国民の関心も希薄だが、小泉純一郎元首相が2度も訪朝し日朝平壤宣言を共和国と結んだように、日朝国交正常化を自分の力で実現したいと考えている日本の政治家は保守政治家のなかにもいる。」とし、それもアメリカと日本の国民世論次第だと現実的な国交正常化は現在のところ厳しいとの見方を示しました。一方、来年、オバマ大統領が再選された場合、2期目の最終段階で米朝関係が大きく動くとの認識を示し、「オバマのブラハ演説をみれば、核廃絶のためには北朝鮮との関係正常化に動かざるを得ない」との認識を示しました。そして、「日朝関係をめぐる日本国民の最大の関心事は拉致問題であり、拉致問題が未解決であることが膠着状態の原因と考えている。日朝両政府は2008年8月、瀋陽での『実務者協議』を開催、初心に還って『再調査』を行うことで合意したが、双方とも履行していない。北朝鮮は日本側の不履行を糾弾しているが、それは正しい。合意したのは『再調査』は双方同時に開始することであり、日本側は北朝鮮の調査開始とともに人道的配慮で万景峰号の新潟港寄港禁止解除など、制裁の一部解除に踏み切る手筈になっていたが、日本側は最初から

履行の意思はなかった。時はあたかも麻生首相が辞任し、北も合意履行のきっかけを失った。『瀋陽合意』はウヤムヤになった。事実上、拉致問題解決が日朝関係進展の弾みとなるが、安倍内閣当時、日本政府が明示した『拉致問題解決の3条件』は実現する可能性はない。米CIAや日本の世論は厳しいが、日朝国交正常化をこのまま放置しておくわけにはいかないだろう。日朝国交正常化は日本の国益に資する。まず、①北東アジアの平和と安全保障を確固たるものにする。北の金正日体制は崩壊、消滅しないであろうからだ。北の体制維持が中国の国益に合致するからだ。②経済的にも日朝貿易、とくに北の資源開発は地域全体の振興と経済発展に貢献する。③精神的・道義的に、日本は「過去の精算」をすることで、朝鮮人民からの信頼と尊敬を勝ち取り、地域の安定を実現できる。かくて、日本は北東アジア全域の平和と繁栄のためのアクターとなれる道が開ける。」とし、「日本全体が『ウチ向き』になり、周辺諸国の動向にも関心を失っているが、東日本大震災の後遺症を克服するためにも、地域の責任あるステークホルダーとしての役割に目覚める必要がある。日朝関係は米朝の函数だ。米朝が動かないと日朝も動かない。日朝を動かして、返す刀でオバマ政権を動かす戦略と実行力が日本外交に求められる。」と講演を締め括りました。



2010年度は市民会議が結成されてから30周年(1980年10月結成)にあたることから、2010年10月、朝鮮民主主義人民共和国に県民会議第15次と合同の第3次訪朝団を派遣したのをはじめ、12月には30周年記念レセプションや記念誌の発行などに取り組んできました。訪朝団は、2012年にむけて「強盛大国化」の象徴的な大同江果樹総合農場や金日成総合大学電子図書館などを視察したほか、長野朝鮮初中級学校の姉妹校である5・13高等中学校を訪問しました。また労働党創立65周年事業・祭典などにも参加してきました。

【事務局長・荒井宏行】

列車でつなぐ北東アジア～11年目の「ともだち展」が始まります

南北 코리아 と日本のともだち展事務局長 筒井 由紀子

本誌でも何度か紹介させていただいている、日本と大韓民国(韓国)、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)に暮らす子どもたちによる絵画展「南北 코리아 と日本のともだち展」。昨年12月に10周年記念の東京展を終了したのち、大阪や松山、埼玉でも展示していただくなど、国内での巡回展示もおこなってきました。また、これまで10年のあゆみをまとめた小冊子も発行しました(写真:ご関心のある方は、ぜひ事務局までご連絡ください)。

しかし、やはり3月11日の地震の影響は少なくなく、3月に展示中だった東京・調布でのトークイベントが中止になってしまったり、3月末から予定されていた横浜での展示が5月の連休に延期されるなど、少しペースを崩しての新年度のスタートとなりました。

今年の企画も、やっと始動です。今年の共同制作テーマは「つなぐ * つながる * ともだち列車」。ともだち展を見に来た・参加した子どもたちが、色画用紙を土台に客車をつくり、どんどんつなげていきます。そして、各地を巡って帰ってきた客車には、各地の子どもたちの小さな自画像が乗って戻ってくるというしかけです。



毎年、東京・ピョンヤン・ソウルを巡っての「共同制作」をおこなっていますが、これに参加できる子どもたちの人数は、とても限られています。この三都市以外でも「ともだち展」を見に来る子どもたちはたくさんいますし、ピョンヤンのなかでも小学校2校をまわるのですから、一人でも多くの子どもたちが参加できるものにしたいと考えた企画です。ちょっと東日本に元気のないいま、今年は大阪をはじめとして、毎年展示をしてくださっている福岡、松山など、すでに展示の予定が決まっている西日本のみなさんに、幅広く参加してもらうことも大きな目的です。また、展示会を開かずとも「列車をつくって、参加したい!」という方も歓迎です。学校のクラス単位や絵画教室など、いろいろな方に気軽に参加してもらいたいと思っています。

その皮切りとなるのが、6月末の東京ワークショップ。首都圏在住の日本人や在日コリアンの子どもたちが参加することになっています。その後、8月にはソウル、ピョンヤンを経て、9月には中国で開催される予定の行事でも、制作ができないかと構想しているところです。

この打ち合わせも着々と進めています。6月初旬には、初夏の香り

が漂うピョンヤンを訪れました。今年の「南北 코리아 と日本のともだち展」について現地の小学校に協力の依頼をし、企画についての打ち合わせを行ないました。



北朝鮮では「強盛大国の扉を開く」2012年を目前に控え、今年は、「人民生活の向上」をスローガンに掲げています。そのためには、食糧問題の解決、軽工業の発展に力を入れていかなければならないということだそうです。農村部では田植えがほぼ終わり、都会から援農に行っていた人たちが街へ戻ってきていました。例年どおり「アリラン公演」が開催される夏に向けて、通りのあちらこちらに花を植えるなど、次は街の整備に精を出しているようでした。市内では、夜に大きな建物のライトアップもおこなわれていて、震災後の東京が暗い分、いつもより明るいような気がしました。その他、空の玄関口であるピョンヤン順安国際空港の空港ビルのリニューアルを始め、ピョンヤン市内随所で、工事がおこなわれていました。

「ともだち展」に毎年協力してくれているルンラ小学校、安校長先生には、「大きな地震や津波が起こったと聞き、皆で心配していました。実行委員会の皆さまのご家族やご親戚はご無事でしたか?」と尋ねられました。今年の絵画展はどうなるのだろうか?と心配していたのです。今年も変わりなく絵画展の準備をしているという、「皆さんが8月にいらっしゃるのを、皆楽しみに待っています!」と答えてくれました。もうひとつの協力校チャンギョン小学校も、同じように東日本大震災のお見舞いとともに、「8月に来るのを楽しみに待っている」と言ってくれました。また、どちらの学校でも「ともだち列車」の見本を見せたところ、「子どもたちなら、もっといろいろ想像して楽しい作品をつくってくれると思いますよ」との言葉。ピョンヤンからどんな作品が寄せられるのか期待されます。

日朝関係は相変わらずの硬直状態で、日本政府は4月に東日本大震災一色の状況下で、制裁措置の1年延長を決めています。国と国の関係は悪くても、10年を越える交流を経て、市民と市民の間にはお互いを思いやる心が育まれているのだと思うと、とても嬉しく、温かい気持ちになりました。日本国内でもなかなか落ち着かない状況が続いていますが、隣国からの励ましを胸に、今年も「ともだち展」をすすめていきたいと思っています。ぜひ応援してください。

南北 코리아 と日本のともだち展実行委員会事務局

問い合わせは TEL03-3834-9808